

神経痛(頸椎ヘルニア)

患者様情報

来院されるまでの症状

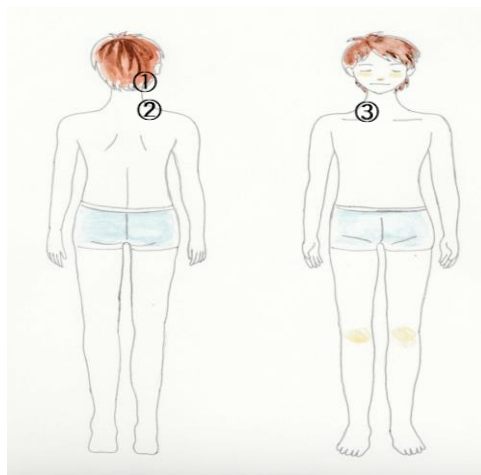
- ・2,3日前に右の首を寝違え、マッサージ治療を受けたが改善がみられず、来院されました。
- ・首を上に向けると、腕から手先にかけて痺れが出て、手首を内側に捻ると肘の内側に痛みが走る状態でした。
- ・患者様の問診をしていると、筋肉の問題だけではなく骨の問題も関係していると考察できたので整形外科で一度レントゲンを撮ることをすすめました。2回目の来院時に、整形外科で頸椎ヘルニアと診断されたと、ご報告がありました。

患者様	40代 男性
初診	2020年 10月
既往症	頸椎ヘルニア
他の症状	腰痛

四診と経過

■ 診療（診断と施術）

- ・右の首から肩にかけて強い筋緊張がみられました。熱感や炎症所見はありませんでしたが、頸椎際と首と肩の境に硬結があり、そこから腕や手の方に影響を及ぼしていると診立てました。
- ・「風池」を緩めるように少し深めの鍼を施し筋緊張をとりました。直後に、頸椎の際と「頸根」「欠盆」に反応が出てきましたので、適宜、筋緊張を緩める鍼を施しました。



■ 初診後の経過

- ・治療後、まだ違和感が残るが痛みは減ったと、感想を述べられていました。
- ・仕事中、繊細な手の感覚が必要で、痛み止めの服用ができないとのことでしたので、現在も週一度のペースで診療を継続しています。まだ診療を施す点は多々ある状態ですが、痛みや痺れは減ってきたそ

使用した主要なツボ

- ①風池（フウチ） ②頸根（ケイコン）
③欠盆（ケツボン）

■ ひとこと添えさせていただきます

- ・今回のケースのように、鍼灸治療だけでなく、必要な時は整形外科や病院をすすめることもあります。現状を把握した上で施術をしていくと、よりの確な治療を提供出来るからです。
- ・患者様によっては、お仕事の関係や体質により薬を服用できないこともあります。そういった際には、副作用のない鍼灸治療は効果を発揮することが期待できます。